

## 平成20年度第2回 動物検疫所入札等監視委員会（議事概要）

開催日及び場所	平成20年9月5日（金） 横浜植物防疫所会議室
委員（敬略称）	鈴木委員長、吉武委員、青柳委員
審議対象期間	平成20年4月1日から平成20年6月30日
抽出案件	13件（競争入札6件、随意契約7件）
委員からの意見・質問、 それに対する回答	下記のとおり
委員会による意見の具 申又は勧告の内容	なし

意見・質問	回 答
<b>複写機保守料（一般競争）</b>	
<p>複写機は、複写機の販売店ではなく、代理店と契約をしているが何故か。</p> <p>複写機の場合、競争入札をしても1社しか応札者がいないのであれば、競争をしていると言えないのではないか。どうして競争が成り立たないのか、打開策はあるのかを動物検疫所として把握すべき。</p> <p>また、全国の動物検疫所の保守契約料金を比較し、最低額で予定価格を立てる等、全国の動向を分析して予定価格に反映すべきである。</p>	<p>複写機の購入契約が代理店となっているためと思われる。</p> <p>競争が成り立つ術を検討したい。</p> <p>予定価格については、動物検疫所全体の複写機に係る保守契約についての情報を集め、次回の保守契約に役立てたい。</p>
<b>霊長類機械設備・自動制御設備等保守契約</b>	
<p>入札前に電話等で質問があった場合、入札参加者全員にその質問・回答内容を知らせているか。</p> <p>現在は、インターネットが普及しているので、質問はメールで受付し、内容をホームページで公開すべきである。そうすることにより競争条件が一つになる。</p>	<p>質問のあった業者のみに回答をしている。</p> <p>政府調達のような高額な契約においては、意見聴取、回答をホームページで行っているが少額の契約についても検討したい。</p>
<b>ヨーネライザー（ヨーネ病検査薬）単価契約</b>	
<p>この薬品を製造しているのは1社だけか。</p> <p>競争を活発化させるためには、輸入品も検討すべきである。</p>	<p>国内ではこの1社だけであり、輸入製品は国内での使用は認められていない。</p>
<b>動物検疫所及び植物防疫業務・システムに係る運用支援業務</b>	
<p>5カ年の国庫債務負担行為での契約を行うことにより、節約はなされたのか。</p> <p>最適化が行われたことにより、どれくらいの節約が行われるのか、ホームページ等でその効果をPRすることも重要である。</p>	<p>本業務は、システムの最適化の中で行われており、旧システムの運用より節約がなされているとの検証が行われている。</p> <p>検討する。</p>